

平成 21 年度生物多様性総合評価検討委員会 第 2 回検討会
議事要旨

1. 作業方針等について

- ・ 特に意見なし。

2. 生物多様性総合評価報告書案について

(1) 評価結果案について

●評価の考え方

- ・ 状態への対策と、要因への対策は区別すべき。ただし持続可能な利用などは指標を設定するのが難しい対策であるため、そうした対策は指標ではなく文章で補完する。
- ・ 生態系だけでなく、生態系ごとの種の多様性も評価していることを強調する。
- ・ 色分けは、絶対的な評価である（他国や他の生態系と比較した相対評価ではない）という認識を進める。

●危機別の評価結果案

- ・ 第 1 の危機の指標について。指標 1 には様々な生態系が含まれ、危機の状況も様々だが、トータルでは、色は赤、矢印は横向きとする。ただし危機的な小規模生態系があることは、専門家の意見や植生レッドデータ等を根拠に、文章で補完すべき。
- ・ 指標 4 は温暖化の危機が評価されていないので、記述すべき。またデータがあるところしか評価できないうえ、平均を見ているので、深刻な要因・深刻な地域で実感することと評価があってない。要因の加速があるか、深刻な要因は何かについて、委員の中で意見が一致していないことを文章で明示する。
- ・ 指標 2 について、陸域は狩猟者数でよいが、海域は水産資源利用のデータが必要。陸域と海域はまとめて評価できないかもしれない。他の指標のところのデータも引用しつつ、文章で表現することとする。
- ・ 水域の富栄養化については、昔より軽減しているものの、まだ基準を達成できていない水域も多く、色はオレンジとするが、危機的状況が去ったわけではない旨を記述で補う。
- ・ 第 2 の危機の指標については、評価はこのままでよい。草原の生物多様性の減少が問題である（→データ例として再掲する）。
- ・ 第 3 の危機の指標について、指標 9（外来種）は、河川での影響が大きいため、オレンジから赤に変更する。
- ・ 指標 10 について、評価はこれでよい。ただし化学物質は過去と比較して減っているものの、農薬の昆虫への影響などまだ指摘されている問題があることは記述する。
- ・ 温暖化の危機の指標について、指標 12 はこのままでよい。
- ・ 対策の指標については、ここでは対策の数についてのみ評価しているので、このままで

よい。ただし対策の効果についても言及すべきなので、その点は最後に総括として述べることとする。

●生態系別の評価結果案

- ・ 森林生態系の指標について。指標 15 は自然度の高い森林、指標 18 は人工林についての指標であると区別したほうが分かりやすいのではないか。
- ・ 指標 18 について持続的な利用を指標できる統計データがない。また作業状況のデータでは、同一の人工林が繰り返し間伐されていることが評価できない。文章で補完する必要がある。
- ・ 指標 15 では、シカによる林床植生の食害の影響が大きく、その背景には狩猟者の減少（第2の危機）もあることを文章で補完する。
- ・ 同じく指標 15 では、天然林の比率はわかるが、天然林は管理の名目上の区分であり自然林とイコールではないことは注記が必要。また自然度別の面積は、1970 年代以降のデータしかなく、2%くらいしか減少していないので、それ以前の減少については文章で補完する。
- ・ 農地生態系の指標 19 では、ため池数の変化データがあるが、改修などの質の変化は見えないこと、数として挙がっているのは近代的な大規模ため池であり、保全上重要な小規模なため池のデータではないことを注記する。
- ・ 都市生態系の指標 22、23 は、土地利用データや東京都の種の分布データなど、記述する際の根拠はたくさんある。
- ・ 陸水生態系の指標 25 について、「連続性」という用語が指すものが、集水域（河川の上・下流方向）の連続性、氾濫原と陸の境界の連続性が混在しているので、区別すべき。
- ・ 指標 24 は、湿原面積が非常に減っていると思われるので、オレンジから赤に変更。
- ・ 沿岸海洋生態系の指標 29 については、色はオレンジ、長期的推移は前半を下向き、あるいはななめ下向きにすべき。資源量が減ったということは持続可能性がなかったということなので、直接示すデータはないが、下向きでよい。
- ・ 指標 27 について、70 年代の国立公園の予備調査では、50 年代の石西礁湖は 100%に近い面積であったので、このデータを入れるべき。

●評価結果案（総括）

- ・ 森林生態系の第2の危機に、シカ密度の増大を入れた方がよい。
- ・ 森林生態系で温暖化の影響がオレンジになっているが、樹木自体はかなり耐える。（→森林生態系は定義として高山も含むため）
- ・ 陸水生態系の第2の危機が抜けている。データはないが、ヨシ原や氾濫原の火入れ管理が無くなった影響は顕著であるので、点線で、色はオレンジ、矢印はななめ上とすべき。
- ・ 山岳や高山がないのが日本らしくない。垂直分布が残っている山岳はどのくらいあるの

- か、データはないが、文章で指摘しておく。
- ・ 沿岸海洋域の第1の危機として、温排水の影響を付記したほうがよい。

(2) 総括 (IV章) および今後の課題 (V章) について

- ・ 第1節について、野草摘み、昆虫採集は、生物多様性の減少と同時に減少するサービスである。エコツーリズム等と同じところに含める。
- ・ 生態系サービスには、ポリネーション、天敵、害虫、シカも入る。
- ・ 国外に説明する場合には、第2の危機の影響のまとめとして「質の低下」の具体例を引用すべき (例えば 103 ページ)。
- ・ 第2節 2010 年目標については前の章との整合性をとるのであれば、「達成されていない」とするしかないが、結構改善されたものもたくさんあり、注意すべきところばかりでなく、達成したところも示したい。
- ・ 農業について国全体をカバーしている政策として農地水環境向上対策があり、こうした良い取り組みになりそうな例を挙げるべき。
- ・ この報告書は初めての通知表であり、分野別でかなりマクロな評価をする性質のものである。政策的努力を誘導していく第一歩なので、教育的でなくてもよいのではないか。
- ・ 生態系サービスの低下の事例、転換点や非線形的変化の事例などについては、委員が個別に事務局へ意見を出すこととする。

以上